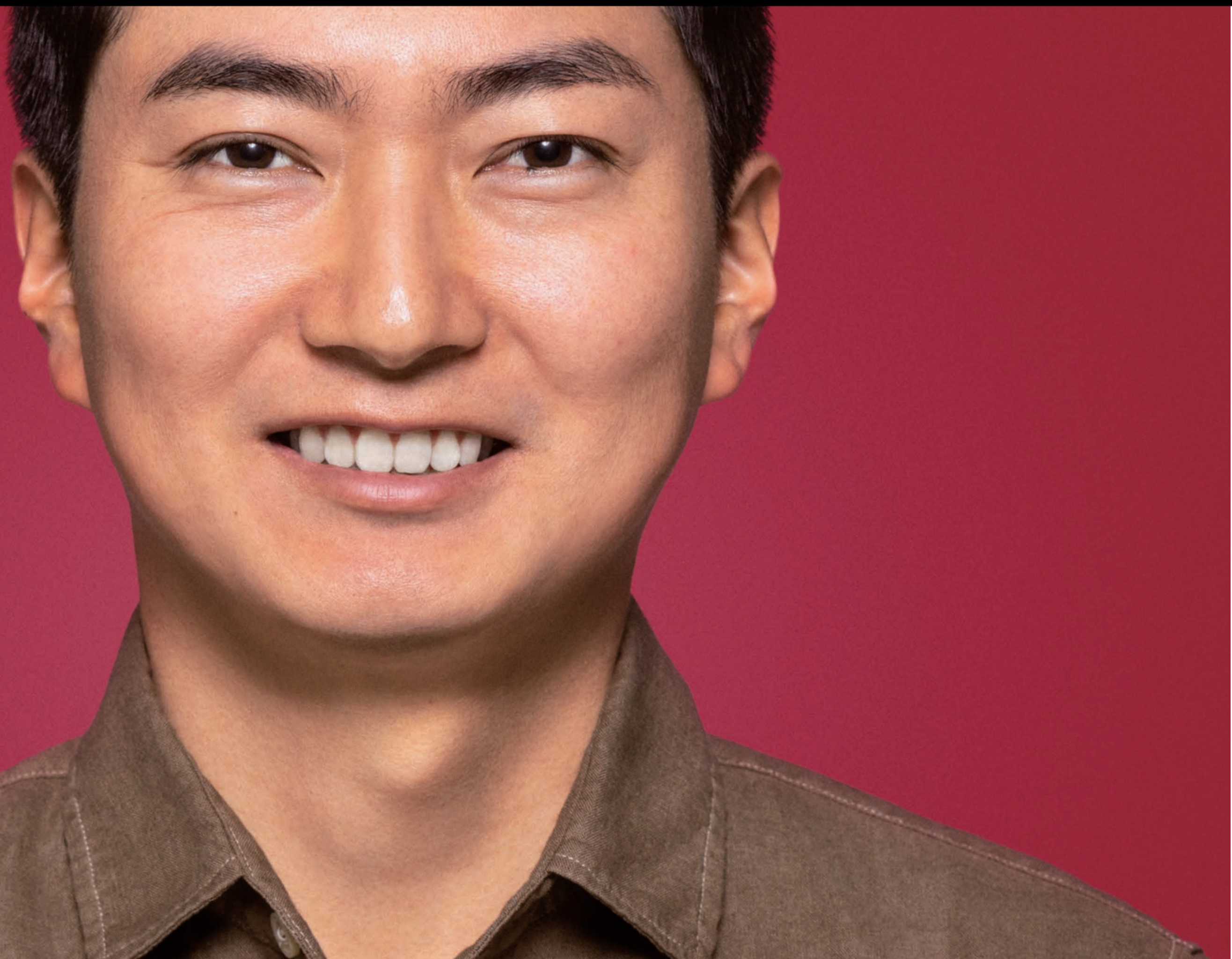


# 福知山の



# 変

その九



「人と自然の  
営みを漆で  
つなげたい」

ウルシの木に傷をつけ、樹液を掻きとること  
で得られる漆。かつては盛んだった福知山市  
夜久野地域の丹波漆だが、時代とともにその  
産業は衰退していった。そんな中、山内耕祐さん  
(37)は2013年に漆掻きを志し夜久野に移住。  
「価値のある仕事なのに消えてしまうなら、自分  
がやろう」と決意した。機能でいえば石油系樹脂  
などに代替される漆。しかし、山内さんは漆から  
生まれる人と自然の営みそのものにつづける  
意味があると考えた。「漆があることで人と山の  
つながりを生み、里山の保全にもつながる。地域  
資源のひとつとして活用していければ」夜久野  
の漆を再生させるには、まずウルシの木を増や  
さなければいけない。土壌との相性や生産性を  
高める生育法など、まだわからないことも多く、  
試行錯誤を重ねている。「ウルシは成木するまで  
約10年。正解がわかるのに10年かかります」  
最近、ようやく答え合わせがはじまった。未知  
の課題と格闘する山内さんが夜久野の未来を  
切り開く。

山内耕祐

(漆掻き/NPO法人丹波漆理事)

福知山の変は、福知山で挑戦する人を応援するプロジェクトです。  
漆染め協力/やくの木と漆の館

変わろう。  
きっと、  
もっと  
よくできる。



福知山市  
Fukuchiyama City